

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率

月次指標の早期推計：7月レポート

稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 首席研究員）
野村亮輔（研究推進部）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:nomura-r@apir.or.jp

ポイント

●7月都道府県別訪日外客数と訪問率の早期推計*

▶7月の関西2府8県別に訪日外客数(推計値)をみると

(表1及び図1)、福井県5人、三重県25人、滋賀県31人、京都府986人、大阪府1,198人、兵庫県202人、奈良県292人、和歌山県24人、鳥取県11人、徳島県9人となった。各府県の伸び率は前年同月比-99.9%となった。依然として観光目的の訪日外客数は蒸発が続いている。

▶運輸局別では(表1)、北海道238人、関東1,967人、中部489人、近畿1,500人、九州321人となった。

▶7月の訪問率(推計値)を関西2府8県別にみると(表2及び図10)

福井県0.1%、三重県0.7%、滋賀県0.8%、京都府26.0%、大阪府31.5%、兵庫県5.3%、奈良県7.7%、和歌山県0.6%、鳥取県0.3%、徳島県0.2%となった。前月から訪問率が上昇したのは三重県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、一方低下したのは福井県、滋賀県、徳島県であった。

●7月発表データのレビュー

▶JNTO 訪日外客数推計値(表3及び図11)によれば、7月総数は3,800人(前年同月比-99.9%)となり、10カ月連続のマイナス。前月(2,600人)から幾分増加したものの、低水準が続いている。

▶国・地域別のトップ5は、中国が800人、ベトナムが600人、米国が400人、韓国が300人、インドが300人であった。伸びは前月と同様に前年同月比ほぼ-100.0%に近い値となり、訪日外客は依然厳しい状況が続いている。

▶東アジアの伸び率をみると中国、台湾、香港は6カ月連続、韓国は13カ月連続のマイナス。日本政府は7月22日にタイ、ベトナムの両国と企業の駐在員や長期滞在者の往来再開の合意を発表し、29日に受入れを開始した。なお、9月にはマレーシアとも往来を開始し、シンガポールとも同様に往来再開を目指している。ビジネス目的に限定されたものであるが、今後訪日外客数は幾分増加する可能性がある。しかし、観光目的の往来は制限されているため、依然として訪日外客の大幅増加は期待しづらい。

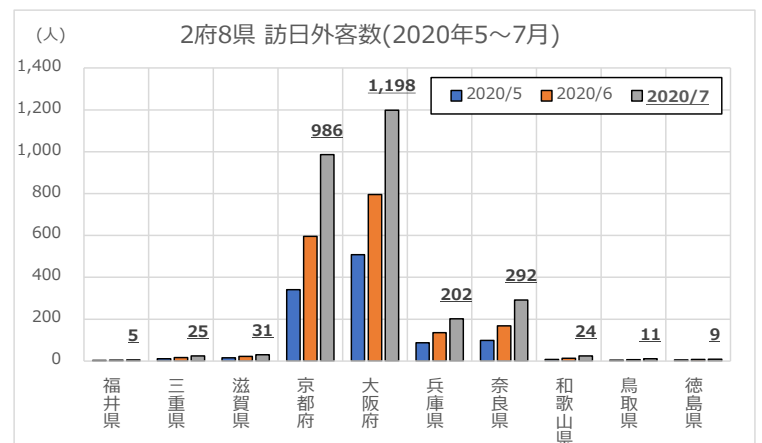
表1 都道府県別訪日外客数の早期推計表

■府県ベース	訪日外客数			単位:人	
	2020/5	2020/6	2020/7	20Q1	20Q2
福井県	3	4	5	7,880	12
三重県	11	17	25	27,579	46
滋賀県	15	22	31	35,459	64
京都府	340	596	986	847,069	1,518
大阪府	508	796	1,198	1,315,911	2,225
兵庫県	87	136	202	220,632	380
奈良県	99	168	292	299,429	452
和歌山県	7	13	24	27,579	35
鳥取県	4	7	11	11,820	19
徳島県	5	7	9	15,759	24

■運輸局ベース	訪日外客数			単位:人	
	2020/5	2020/6	2020/7	20Q1	20Q2
北海道	152	176	238	450,677	661
関東	869	1,352	1,967	2,071,305	3,755
中部	187	309	489	442,506	824
近畿	577	955	1,500	1,364,549	2,542
九州	146	222	321	352,742	629

注:全目的(観光・レジャー目的以外も含む)の訪問率をもとに訪日外客数を推計している。なお、地方単位(運輸局ベース)で推計される訪問率と訪問者数は、地方内の複数訪問を1回とカウントしているため、都道府県の訪問者数を単純に合算した値とは異なることに注意。シャドウは実績値。

図1 都道府県別訪日外客数の3カ月比較図



注:数値は最新月の予測値。

* 早期推計は以下の手順で行われている。まず、四半期ベースの都道府県訪問率を月次化し、それを用いて時系列モデルを推計、その6カ月予測を行う。これに訪日外客数(JNTO)を乗じて、月次ベースの訪日外客数を推計している。訪問率の実績値が発表されるまでは、このルーティンが繰り返される。本手法は当研究所の日本経済月次予測で用いている超短期予測のアイデアを応用しており、詳細な推計方法については Trend Watch No.54(2019年5月)参照のこと。

トピックス 1

●7月関西国際空港：訪日外客数の動向

▶7月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は、834人で伸びは前年同月比-99.9%減少した(図2及び図5)。国際線の一部再開の影響により前月(578人)より幾分増加したものの、依然として低水準が続いている。なお、8月以降も強化は続くが、関空では入国時のPCR検査の簡素化や中国への国際線の一部再開などが行われており、訪日外客数の増加に幾分寄与するだろう。

●経済ショックからの回復の比較：外需関連

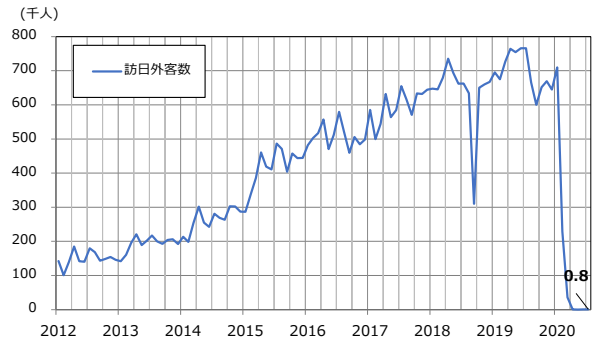
▶関西7月の輸出は5カ月連続のマイナスだが、マイナス幅は前月よりも縮小(図3)。輸出額は前年同月比-11.8%減少し、対中輸出の伸びもありマイナス幅は前月(同-14.1%)よりも縮小。輸入額は同-18.5%減少し10カ月連続のマイナス(前月:同-2.2%)。対欧米向けの輸出入の減少が続いていることに加え、原油価格の低下により鉱物性燃料の減少も影響した。結果、関西の貿易収支は1,509億円と6カ月連続の黒字となったが、貿易総額(輸出入合計)は前年比-15.1%減少し(前月:同-8.8%)、昨年9月を除けば20カ月連続で縮小している。

▶地域別の貿易動向をみると(図4)、関西7月の対中輸出額は前年同月比+7.0%増加し2カ月連続のプラス。中国の生産活動が再開され、経済の持ち直しが影響した。一方、対中輸入額は同-9.5%減少し4カ月ぶりのマイナス。輸出増に寄与した品目は半導体等電子部品、非鉄金属で、輸入減に寄与した品目は衣類及び同附属品、通信機であった。

▶7月の関空への訪日外客数は前年同月比-99.9%大幅減少し、6カ月連続のマイナス。新たに推計(APIR)された2019年の関西での外国人消費額は1兆1,485億円(確報ベース)となった。このため7月のインバウンド需要の損失額は956億円(=11,485/12×関空への訪日外客数の減少率)と推計される。結果、2-7月期インバウンド需要の損失合計は5,368億円となる。

▶図5は関空訪日外客入国者数の動態をリーマンショック期、東日本大震災期と今回の3つの時期で比較したものである。7月の落ち込みは前月とほぼ同程度であった。関空では国際線の一部運航再開とPCR検査の簡素化が行われていることから、訪日外客の移動と入国時の検疫が幾分緩和されつつある。しかしながら、依然厳しい入国制限措置に加え、入国後の行動についても制約がかかることから、東日本大震災のように訪日外客の急回復は期待しづらい。

図2 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所:出入国管理統計より筆者作成。

2020年7月値は速報値(図5も同様)。

図3 関西 対世界貿易の推移

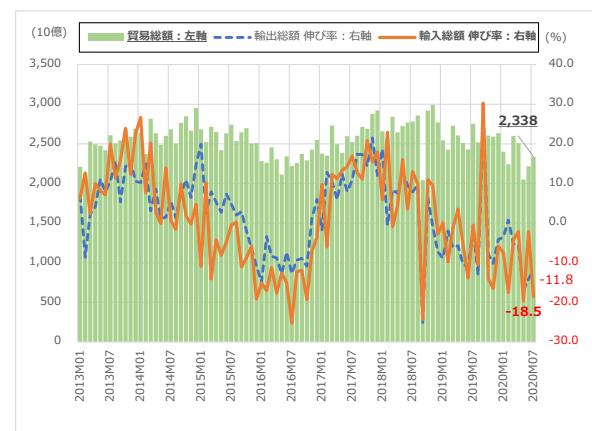
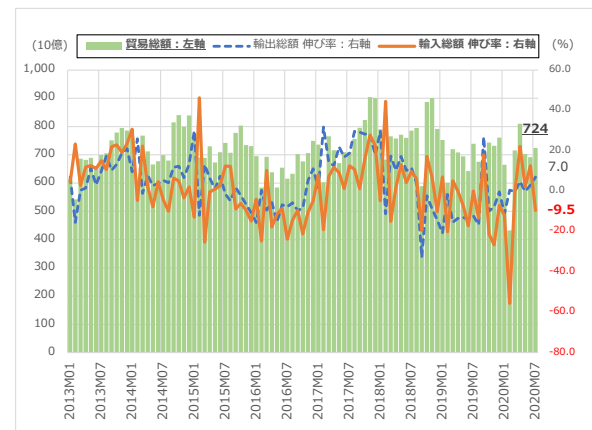
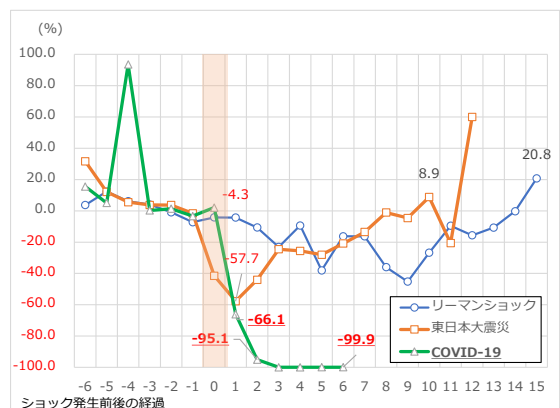


図4 関西 対中貿易の推移



出所:「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」より筆者作成

図5 経済ショックからの回復の比較



トピックス 2

●5月 延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶5月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は4カ月連続の前年同月比マイナスとなった(同-88.4%)。5月4日に緊急事態宣言の延長が発出されたことによる影響が大きい。なお、関西では21日に京都府、大阪府、兵庫県を除いて緊急事態宣言が解除となり、25日には全県で解除となったため、6月は日本人宿泊者数の増加が幾分見込まれるだろう。一方、外国人宿泊者数においては政府の水際対策強化により入国制限が続いていることから、しばらく低水準が続こう。

▶うち日本人延べ宿泊者数をみれば、1,245.2千人泊となり5カ月連続の前年同月比マイナスとなった(同-84.6%) (図6)。府県別に延べ宿泊者数が多い順でみれば、大阪府が370.4千人泊(同-84.9%)、兵庫県が231.7千人泊(同-78.9%)、京都府が180.8千人泊(同-90.3%)、三重県が122.6千人泊(同-83.2%)、福井県が94.8千人泊(同-70.7%)、滋賀県が76.4千人泊(同-82.6%)、和歌山県が65.5千人泊(同-83.8%)、鳥取県が45.4千人泊(同-83.4%)、徳島県が32.3千人泊(同-86.6%)、奈良県が25.4千人泊(同-89.6%)であった(図7)。前述したとおり、各府県とも緊急事態宣言が延長されたことによる外出自粛の影響が大きい。

▶うち外国人延べ宿泊者数をみれば、24.5千人泊となり4カ月連続の前年同月比マイナス(同-99.2%) (図8)。府県別に多い順でみれば、大阪府が14.1千人泊(同-99.1%)、京都府が4.9千人泊(同-99.5%)、鳥取県が1.1千人泊(同-92.4%)、滋賀県が1.1千人泊(同-97.2%)、兵庫県が1.1千人泊(同-99.1%)、三重県が0.9千人泊(同-97.3%)、福井県が0.5千人泊(同-94.4%)、和歌山県が0.4千人泊(同-99.4%)、奈良県が0.3千人泊(同-99.4%)、徳島県0.1千人泊(同-99.1%)であった(図9)。政府の水際対策の強化により訪日外客が途絶していることから、伸びは各府県で-90%を超える減少となった。

▶3-6月期の宿泊者数(全国ベース)の減少幅(推計値)から国内旅行消費額の損失額を計算すると約4.8兆円となる。Go To キャンペーンの実業予算を考慮すれば、損失額の4割程度が補填されることになるが、先行きは不透明である。

※今月レポートより旅行動向を総合的にとらえるため、国内における日本人と外国人の延べ宿泊者に関する内容を掲載することにした。

図6 関西 日本人宿泊者数及び伸び率 推移

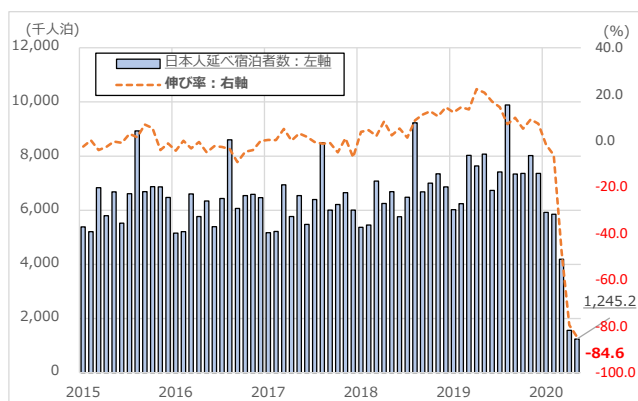


図7 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

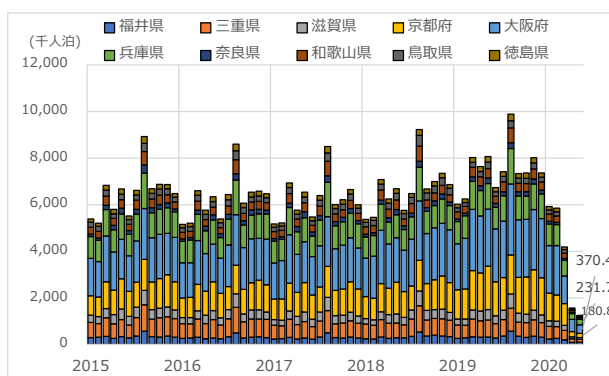


図8 関西 外国人宿泊者数及び伸び率 推移

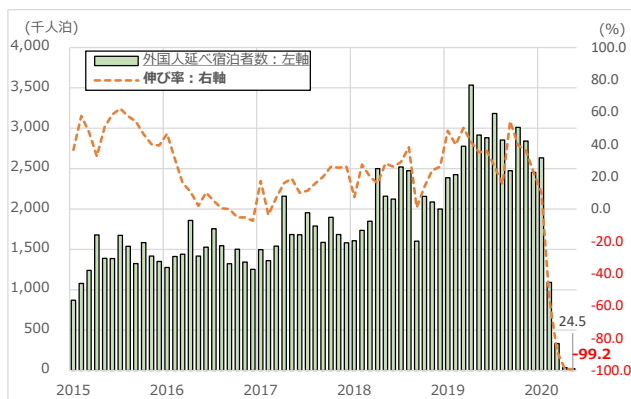
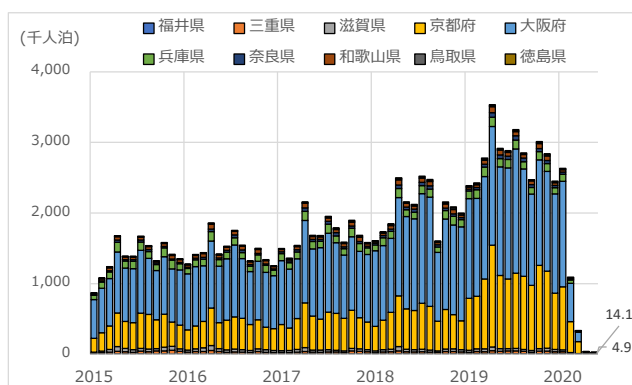


図9 府県別外国人延べ宿泊者数 推移

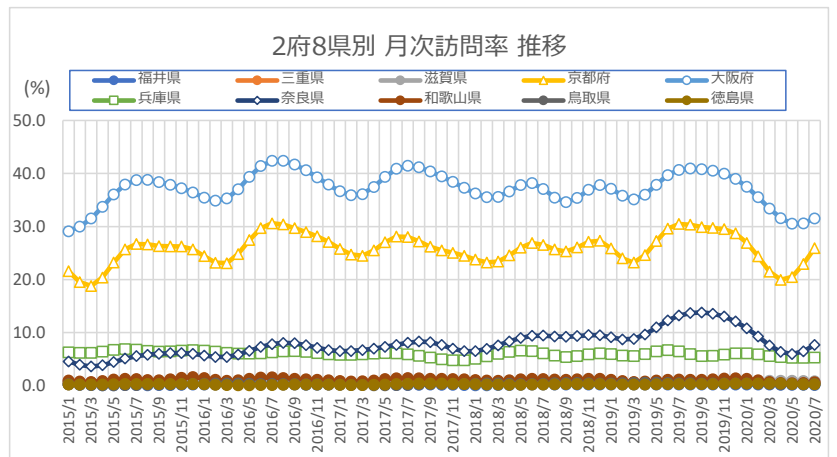


出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」より筆者作成(図6~9)

表 2 月次訪問率の早期推計表

訪問率	単位:%				
■府県ベース	2020/5	2020/6	2020/7	20Q1	20Q2
福井県	0.17	0.15	0.14	0.20	0.15
三重県	0.64	0.64	0.65	0.70	0.64
滋賀県	0.90	0.85	0.80	0.90	0.85
京都府	20.47	22.92	25.94	21.50	22.92
大阪府	30.53	30.60	31.54	33.40	30.60
兵庫県	5.25	5.23	5.31	5.60	5.23
奈良県	5.96	6.45	7.69	7.60	6.45
和歌山県	0.44	0.49	0.64	0.70	0.49
鳥取県	0.25	0.26	0.29	0.30	0.26
徳島県	0.32	0.28	0.24	0.40	0.28
■運輸局ベース					
北海道	9.14	6.76	6.26	11.44	6.76
関東	52.26	51.99	51.77	52.57	51.99
中部	11.26	11.89	12.87	11.23	11.89
近畿	34.70	36.72	39.48	34.63	36.72
九州	8.75	8.56	8.45	8.95	8.56

図 10 月次訪問率の推移



注: シャドウは実績値

表 3 2020年7月 訪日外客数 (JNTO 推計値)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2019年 7月	2020年 7月	伸率(%)	2019年 1-7月	2020年 1-7月	伸率(%)
総数	2,991,189	3,800	-99.9	19,624,803	3,950,800	-76.3
総数(韓国・その他除く)	2,311,472	2,670	-99.9	4,424,333	478,100	-89.2
韓国	561,675	300	-99.9	5,582,885	1,023,700	-81.7
中国	1,050,420	800	-100.0	2,940,065	689,900	-76.5
台湾	459,216	100	-100.0	1,314,699	344,930	-73.8
香港	216,810	20	-100.0	756,797	215,360	-71.5
タイ	73,202	20	-100.0	235,799	54,800	-76.8
シンガポール	21,716	10	-100.0	260,886	74,750	-71.3
マレーシア	22,957	10人未満	-99.8	241,088	69,770	-71.1
インドネシア	25,215	50	-99.9	332,891	104,400	-68.6
フィリピン	37,771	50	-98.5	294,009	112,100	-61.9
ベトナム	40,762	600	-97.7	106,162	22,800	-78.5
インド	13,222	300	-99.9	361,779	142,720	-60.6
豪州	34,873	50	-99.7	1,031,989	214,600	-79.2
米国	156,865	400	-99.9	213,054	52,780	-75.2
カナダ	29,285	30	-100.0	40,285	9,370	-76.7
メキシコ	8,661	10人未満	-99.8	214,626	49,870	-76.8
英国	28,928	60	-99.8	194,944	41,400	-78.8
フランス	34,634	80	-99.7	137,072	28,670	-79.1
ドイツ	18,593	50	-99.9	88,334	13,160	-85.1
イタリア	13,566	10	-99.9	64,945	20,770	-68.0
ロシア	9,005	10	-99.8	67,193	11,300	-83.2
スペイン	15,771	30	-99.6	52,883	7,110	-86.6
中東地域	6,813	30	-99.3	668,085	168,440	-74.8
その他	111,229	790	-99.3	668,085	168,440	-74.8

図 11 訪日外客数 推移



出所: 日本政府観光局(JNTO)、2020年8月21日付より筆者加工